

【ハイチ大地震災害救援事業に参加して】

業務部企画課主事 山元 麻紀

2010年1月12日16時53分（現地時間）、ハイチ共和国でマグニチュード7.0の直下型地震が発生しました。日赤は、地震発生の約2週間後から、基礎保健緊急対応ユニットを展開し、被災者に医療の提供を続けています。私は第4班の事務管理要員として、平成22年4月20日から5月24日の約1ヶ月、首都であるポルトープランスで活動しました。

事務管理要員の仕事は、事業費（現地活動に必要なお金）の管理、車の配車及び管理、現地スタッフの雇用・管理に関する業務、物品調達、派遣要員に関する業務等です。こうして活字にすると、なんだかコンパクトにまとまりますが、今回が初めての派遣である私は、なかなかスムーズに業務をこなすことができず悶々とすることも多くありました。事業費の管理といっても、3種（日本円、米ドル、ハイチグルド）の通貨を管理しなければならないので、電卓は必需品です。物品調達については、修理に出した扇風機が返ってこなくなったり、デモの発生により急遽外出が制限されたりと一筋縄ではいきません。

また、外出時に必ず同行する現地運転手は、英語がほとんど通じませんので、わずかな絵心とジェスチャーを駆使してコミュニケーションを図っていました。

日々の業務を滞らせる原因としてはずせないのが、“暑さ”です。日中の多くをテントで過ごしていましたが、一日で最も暑くなる11時頃には43度を超えることもあり、時にはアイシングをしながらパソコンに向かっていま



車のメンテナンスに立ち会う山元主事



現地スタッフの契約更新にあたる

した。

毎日こんな感じでバタバタと過ごしていましたが、医療職の皆さんがテントに戻り、デイリーミーティングが終了した後は、日々の出来事を共有しあったり、取り留めのない話をしたりと、楽しい時間をすごしました。チームには、経験豊富なメンバーが多く、非常に恵まれた環境で活動することができました。



普段、日本のように平和な国で生活していると、想像もつかないような日常がハイチ

テントの撤収に立ち会う

では現在も続いています。しかしながら、現地の方は非常に前向きで力強く、彼らの力になりたいと思っていた私は、彼らの力に勇気をもって一ヶ月の活動を続けることができました。まだまだ時間はかかると思いますが、一日も早いハイチの復興を心から祈っています。